

こども未来部における不登校支援について



令和7年11月
沖縄県こども未来部
こども若者政策課



1 こども未来部における不登校支援について

こども未来部では、不登校支援として、以下の取組を実施

- ① **相談窓口**「こども若者みらい相談プラザsorae（ソラエ）」の運営
- ② 安心して過ごすことのできる**居場所**の運営（拠点型こどもの居場所事業）

相談窓口「ソラエ」

1 事業概要

- ① 対象
0～39歳までの困難を有するこども・若者、その保護者
- ② 設置箇所
那覇市（ソラエなは）、名護市（ソラエなご）
- ③ 支援内容
対面、電話・メール等による相談、関係機関の紹介、**アウトリーチ**、その他必要な情報の提供等

2 職員配置

専門性の高い相談員（**公認心理師、臨床心理士**等）

3 周知方法

- ① 毎年小中高に「**ソラエカード**」を配布
- ② 保護者や支援者を対象に**研修会**を開催



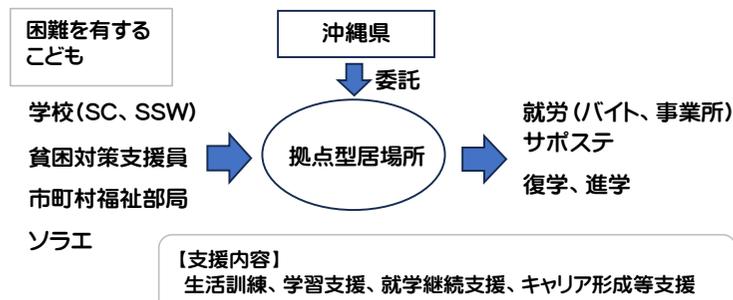
拠点型こどもの居場所

1 事業概要

- ① 対象
困窮世帯のこどもで、**かつ**不登校、ひきこもり、非行、発達障害等**困難を抱えるこども**（**15歳～概ね18歳**まで）
- ② 設置箇所
南部圏域（八重瀬町）、**中部**圏域（宜野湾市）
- ③ 支援内容
生活訓練、学習支援、就学継続支援、キャリア形成支援

2 職員配置

専門性の高い支援員（**社会福祉士、キャリアコンサルタント**等）



2 相談窓口「ソラエ」の運営

現状

- 新規相談件数（実数）：R2 583件 R3 625件 R4 675件 R5 732件 **R6 797件**
- 年齢別割合（R6）：13～15歳 26% 16～19歳 24.6% 6～12歳 15.3% **※6～19歳 65.9%**
- 相談内容（主訴）：**不登校**に関する相談が最も多い（全体の**45.4%（R6）**）

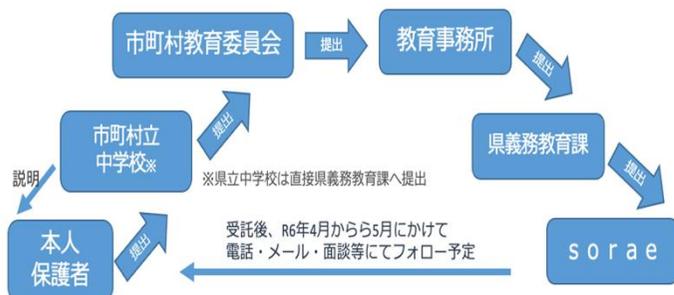
課題

- **新規相談件数が増加傾向**にあり、また、令和6年度は全相談件数の**約5割が不登校**に関する相談となるなど、支援ニーズが高いことから、**相談支援体制の充実及び関係機関との連携体制の強化が必要**
- **中学卒業後進路未決定者**について、中学校卒業時に支援とつながることなく孤立してしまうことのないよう、**中学校3年生の段階から支援につながる取組を継続**していく必要がある。

県義務教育課での
同意書案の作成について協議
下記、同意書イメージ

同意書
卒業後に、ソラエからの支援
を希望しますか...
氏名（本人or保護者） _____
電話 _____

説明と提出の流れ（県義務教育課との調整会議でのヒアリングより）



	R3年度	R4年度	R5年度
進路未決定者	211	235	301
卒業後に連絡が取れた者	20	20	36
差	191	215	265
割合	9.5	8.5	12.0

※R3年度中卒進路未決定者：R4年3月卒業生

3 拠点型こどもの居場所の運営

現状

- 利用者の多くは、**中卒**あるいは、**定時制・通信制高校**（公私立）に在籍
- **不登校経験者の割合が高く**、生活困窮、虐待、発達障害、非行、ヤングケアラー等**複合的な課題を抱える世帯のこどもの割合が高い**。
- 困難を有するこどもへの支援について、**中学校卒業以降の居場所などの社会資源が乏しい**ことから、当居場所が貴重な社会資源となっている。

課題

- 困難を有するこどもたちが、居場所支援を通じて、自己肯定感が高まり、就学継続や就労（アルバイト等）へつながり、**支援終結に至るまでは長期間**を要する。
- 他者との関わりが苦手なこどもが、社会で必要とされるコミュニケーション能力を十分に習得できず、就労し、将来、**社会的に自立することが困難となる恐れ**がある。

4 これまでの取組の成果と今後の対応方針

相談窓口「ソラエ」

研修実施後のアンケートで寄せられた声

<保護者>

同じように悩んでいる人がいることが
分かり気持ちが軽くなった。

学校以外にも相談できる場所がある
ことを知れたのがとても良かった。

<教職員>

研修会の内容を参考に学校で実施でき
る支援方法を増やしていきたい。

拠点型こどもの居場所

R5 青少年実態調査結果

- ① 調査対象
中卒進路未決定者、高校中退者、若年無業者等
- ② 調査方法
調査対象に対し、こどもの居場所等の支援施設や市町村の相談支援員等を介してヒアリングによる調査を実施
- ③ 調査結果
支援を受ける前後で、心情の変化等が現れており、支援の有効性が確認された。

<抱えている不安>

「特になし」との回答が、支援前の7.9%から支援後は15.8%と7.9ポイント増加した。

<将来への期待>

「目標の定まり・目標に向けた前進」との回答が、支援前の15.8%から支援後は46.1%と約3倍に増加した。

ソラエや拠点型こどもの居場所における支援の有効性が確認されている一方で、依然として、複合的で解決が容易でない課題を抱えて不登校に至ったこども・若者が多くいることから、引き続き、教育と福祉が連携し、学校現場及び学校外における支援の充実に取り組んでいく。